



一歩前進

第7号
12月24日発行
文責:林

重点目標:自分も人も大切に考動(こうどう)する笑顔いっぱい湯浦っ子
育てたい資質・能力:共感力(やさしく) 探究力(かしこく) 協働力(たくましく)

あたたかい光(拍手)を浴びて 胸を張ったひまわり(湯小っ子)

「ひまわり集会」は、多くの皆様のご観覧があり、子どもたちは、「大勢の観客の前で表現する」という貴重な体験をすることができました。どの発表もあたたかい拍手に包まれ、「共育」の素晴らしさを改めて強く感じる事ができ、有り難く思いました。

さて、人前で発表するためには事前の準備に時間を要します。何度も練習をし、改善に努め、この日を迎えました。このような努力があればこそ、本番の発表で大きな拍手をもらえたことは、子どもたちにとって、この上ない大きな自信となりました。

今回の「ひまわり集会」では、**観客(保護者・地域)の皆様のあたたかい光(拍手)をいただくことで、ひまわり(湯小っ子)が、すっと胸を張り、力を尽くし、自信をつけることができました。**

その子どもたちと保護者の皆様の感想を一部紹介させていただきます。

★6年生保護者の感想

- ◎よく声が出ていて、堂々としていました。「さすが最高学年!」他の学年の発表の時も、観る・聴く姿勢がすばらしかったです。成長を感じました。「感動!」
- ◎「しっかりと学びのある修学旅行だったのだな」ということが伝わりました。堂々とした発表で、チームワークのよさを感じました。
- ◎6年生が力を合わせて取り組む姿を見て、「仲良く助け合うことが平和の一步だな」と改めて感じました。

★6年生の感想

- ◎劇の練習は内容が伝わるように工夫しました。たくさん練習をして臨んだ本番の劇、見事成功し、親や周囲の人から「上手だった」「感動した」などと言われ、「がんばってよかった」と思いました。来年、中学校でも周りの人達に喜んでもらえるようにがんばります。
- ◎台詞を言う直前まで緊張していたけれど、言うときは落ち着いていました。きっと今までたくさん練習してきたから自信を持って発表できたのだと思います。発表後に、親から「しっかり声が出ていたよ」と言われてうれしかったです。また、どの学年も自信を持ってハキハキと発表していてすごいな、と思いました。

★5年生の感想

- ◎直前にインフルエンザが流行し、発表できるか心配していましたが、本番では間違えずに台詞が言えてよかったです。みんなで協力して、よい作品ができたと思います。これからも、何をする時もみんなで協力できたらいいな、と思います。
- ◎ひまわりサークルの読み聞かせは、心にささるお話でした。米の販売では、買ってもらうために声を出したのが楽しかったです。余った3kgパックのお米は、また販売したいです。集会の司会は緊張したけれど、やりがいを感じました。

★3年生の感想

- ◎練習の成果を出せて、温かい歌声を届けられたと思います。楽しくタイミングを合わせて演奏することができました。

- ◎緊張しましたが、後悔なく発表することができました。

★2年生の感想

- ◎本番に向けて、毎日なわとびの練習をがんばりました。あやとびと二人とびが上手にできました。おうちで「去年より上手になっていたよ」と言われてうれしかったです。
- ◎人がいっぱい緊張したけれど、たくさん練習していたので、大きな声で、間違えずに台詞言うことができてよかったです。

私たちの学校を大切に (体育委員の活躍)

ひまわり集会の最中、雨天となり、グラウンドが荒れてしまいました。

休み明けの月曜日の朝、体育委員会の子どもたちが、グラウンド整備をしている姿に遭遇しました。このような日々の活動が、学校を大事に思う心を育むのだと、思いました。



人権集会

「自分も友達も元気になり、笑顔になる言葉を大切に」



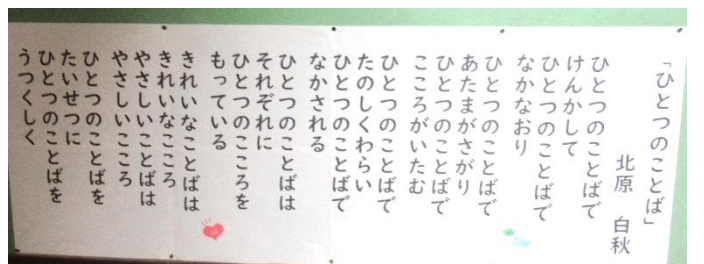
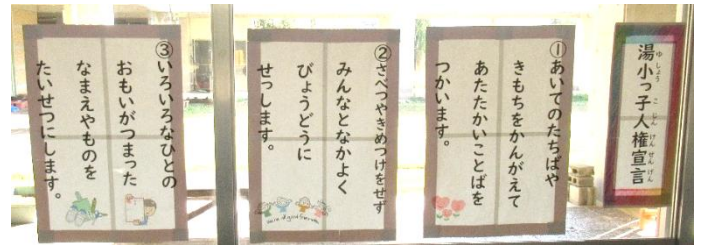
インフルエンザの影響で延期していた人権集会を12月17日(水)に全校で実施しました。私達が普段何気なく他の人に投げかけている「言葉」をテーマにした集会となりました。

まずは、児童玄関に掲示してあります「湯小っ子人権宣言」の反省を全体で行いました。

次に、各学年の宣言に対する取組の成果と課題、今後取り組むことを発表しました。宣言していても、実行するのは簡単ではありません。性格や生育環境の異なる子どもが同じ空間で同じ時を過ごすわけですから、トラブルがあるのは当たり前であり、その経験を通して社会性を身に付けていくことになります。特効薬はなく、小さなトラブルを乗り越えながら成長していくわけです。

さらに、上村教諭司会のもと、熊本県人権子ども集会において発表された小学校の実践例を動画で視聴しました。北原白秋さんの「ひとつの言葉」という詩を大切にしている学校でした。その学校に習い、この詩を全員で読み、感想を交流しました。今後、学級にも掲示し、日々声に出すことで、言葉を大切にできるように育ててまいります。

キーワードとしては、「自分も友達も元気になり、笑顔になる言葉(魔法の言葉)を大切に」です。ご家庭でも、取り組まれてみてください。



星野富弘美術館 森 学芸員に、詩画の描き方を学びました

第19回星野富弘美術館詩画公募展の募集「12月1日(月)～1月31日(土)」に向けて、1年生と4年生で、学芸員の森先生にゲストティーチャーとして来校いただき、詩画の描き方を学びました。

それぞれ2単位時間(90分)で、その子ならではの作品が見事にできあがりしました。作品づくりに熱心に取り組む姿が見られました。学習後の子どもの感想を一部紹介します。

★1年生の感想

- ◎はじめてだったけど、上手にかくことができてよかったです。
- ◎集中してかくことができました。

★4年生の感想

- ◎詩を考える時、「聞こえてくる自分の気持ちを書けばいい」と聞いて、すらすら書くことができました。
- ◎最初は絵の具で描くことを難しく感じていたけれど、森先生にアドバイスをもらってきれいに描くことができました。
- ◎「命は一つしかないから今を大切に生きていこう」という気持ちが自分の中にあったので、その気持ちを詩画に描きました。



令和7年は大変お世話になりました
「ありがとうございました」
新年がよい年となりますように



時の過ぎるのは早く、気付けば令和7年も残り一週間となりました。4月に赴任してこれまで、PTA役員の皆様をはじめ、保護者や地域の皆様の学校教育への深い理解と、協働の意識に支えられ、今日を迎えることができました。

校長として、改めまして心より感謝申し上げます。

そして、年男の私も含め、新年(令和8年)が、湯小っ子や皆様、そして教育関係者にとって幸多き年となりますことを祈念申し上げます。

